

施策評価シート

幹事部局

政策企画局

施策の名称	Ⅲ－２－(２) 世界に誇る地域資源の活用
施策の目的	日本を代表し、世界に誇ることのできる数々の地域資源を活用した地域振興を進めます。
施策の現状 に対する評価	<p>①(島根が世界に誇る歴史的遺産及び自然環境の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県には、世界文化遺産の石見銀山遺跡や隠岐ユネスコ世界ジオパークなどの歴史的遺産、大山隠岐国立公園、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海の自然環境など、日本を代表し、世界に誇ることができる地域資源がある。 ・ これらの地域資源は、観光やレジャーの振興、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与しているが、地域資源の持つ魅力や価値の発信については、一体的な取組が十分でないこともあり、認知度の広がり課題となっている。 ・ 観光面でも、コロナ禍の影響もあり滞在の長期化や観光消費額の増加に、十分には繋がっていない。 ・ 県内では、地元市町村の学校教育の場で、地域資源を活用した授業や体験学習が積極的に行われ、優れた地域資源を有する地元への誇りの醸成に寄与している。 ・ また、コロナ禍の影響から、小中学生の修学旅行について、県内へ行き先を変更した学校があり、地元以外の県内の地域に実際に訪れ、文化、自然に触れることにより島根への愛着や誇りを育む機会となった。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏等向け島根の情報発信強化事業(「いいけん、島根県」プロモーション)特設サイトにおいて、島根の自然や文化を紹介するページを設け、一体的に各地域資源のPRを行った。 ・ 石見銀山遺跡では、オンライン配信による県外講座や企画展の実施により、認知度の向上や価値や魅力をわかりやすく伝えることに努めた。 ・ しまねの自然公園満喫プロジェクトとして、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成の取組などへの支援のため補助制度を創設した。
今後の取組 の方向性	<p>①(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれが持つ歴史的遺産や自然環境の魅力や価値を更に高めることを基本としながら、情報に対するアクセスを改善するため、一体的な広報や教育場面での活用など情報発信を工夫・強化し、県内外での認知度を高め、交流人口の拡大と地域の活力に繋げる。 <p>②(誘客の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光への活用については、引き続き首都圏のPR会社とも連携し、戦略的にメディア露出を増やし、各資源の認知度の向上や来訪意欲の喚起を図るとともに、体験メニューの充実や旅行商品化が見込まれる取組に対する重点的な補助や、定着を図るための継続的支援を行う。

事務事業の一覧

施策の名称		Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	穴道湖・中海において、ラムサール条約の趣旨である「環境の保全・再生」と「賢明な利用(ワズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。	6728	5722	環境政策課
2	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。	94126	83544	文化財課
3	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	51681	89257	自然環境課
4	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	186865	188908	自然環境課
5	「ご縁の国しまね」観光総合対策事業	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	県外在住者：「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者：「ご縁」といった島根のイメージに沿った観光商品や受入体制をつくる。	287490	328210	観光振興課
6	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	30574	44027	文化財課
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	宍道湖・中海において、ラムサール条約の趣旨である「環境の保全・再生」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。		6,728	5,722
今年度の取組内容	①水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業 人の五感による湖沼環境評価調査、小中学生による流入河川調査 ②ラムサール・大型水鳥啓発事業 ラムサール関連イベント(子どもラムサール交流会、中海・宍道湖一斉清掃 等) 大型水鳥を活用した普及啓発(水鳥観察会、パネル展示会等) ③大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業(トキ、コウトリを活用した広域連携ネットワーク活動の支援)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・公共施設や集客施設において、パネル展示会を開催 ・ドローン撮影による賢明利用スポットを紹介する動画の制作・放映				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数 【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0						
		達成率	—	84.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査	モニター数(人・団体)	R1:62	R2:85					
		②小中学生等による流入河川調査	実施団体数(団体)	R1:32	R2:37					
		③中海宍道湖一斉清掃	参加人数(人)	R1:6,665	R2:中止					
		④ラムサール関連イベント	実施イベント数(回)	R1:1	R2:1					
		⑤大型水鳥関連イベント	実施イベント数(回)	R1:8	R2:5					
		⑥賢明利用関連普及啓発	広報数(回)	R1:6	R2:10					

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	両湖のラムサール条約登録15周年に合わせて、パンフレットの更新、多言語化や動画を制作するなど、普及啓発媒体の充実を図った。 ○パンフレットの更新(ラムサール条約登録15周年記念イベントの様子を追加記載) ○多言語化(簡体字、繁体字、韓国語、ポルトガル語、英語のパンフレット作成) ○両湖の魅力映像の制作 ・マガン～宍道湖～ ・コハクチョウ～宍道湖～ ・宍道湖のじみ漁 ・宍道湖西岸空中散歩 ・宍道湖伝統漁法～秋鹿～ ・中海空中散歩～安来港・飯梨川河口～ ・中海・宍道湖ラムサール条約15周年イベント
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点 賢明利用スポット(※)の存在を知らない人や、知ってはいるが行かない(行けない)人に向けて宍道湖・中海の魅力を伝えること。 ※賢明利用スポット 湖の環境を守りながら、湖から得られる様々な恵みを持続的に活用できる公園・施設のこと。 島根県観光動態調査により来訪者数の把握が可能な以下の施設等を代表的な賢明利用スポットとしてKPIでカウントしている。 (松江市) ・宍道湖遊覧船 ・秋鹿なぎさ公園 ・道の駅本庄 (出雲市) ・宍道湖グリーンパーク ・ゴビウス ・出雲市トキ学習コーナー ・出雲市トキ一般公開施設
	②原因	・賢明利用スポットの存在や魅力についての周知不足及び新型コロナウイルスの影響による来訪者数の減。
	③方向性	・パネル展示や両湖の魅力を収録した動画の制作、配信により、両湖の認知度の向上及び賢明利用スポットへの来訪者数の増加を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。		94,126	83,544
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山遺跡の全容を明らかにし価値を高める基礎調査研究を行い報告書を刊行 広く一般の方に訴求力のあるテーマとして国際交易港温泉津について研究し、わかりやすく伝える企画展をR4年度に開催 世界遺産センターにおいて、調査研究により得られた成果をわかりやすく伝える企画展を定期的に開催 大田市が実施する史跡等の保存整備や落石防止等の安全対策を支援 体験メニューを取り入れた県内講座の開催や県外講座のオンライン配信等により、情報発信を強化 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 大田市との共催により、世界遺産センターにおいて、調査研究成果をわかりやすく展示する企画展を定期的に開催する。 体験メニューを取り入れた県内講座を開催する。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値
		実績値	8.0	8.0						
		達成率	—	80.0	—	—	—	—	—	%
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値
		実績値	91.2	97.0						
		達成率	—	102.2	—	—	—	—	—	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H30年度32.9%、R元年度33.9%、R2年度34.6%と推移 石見銀山の入込客延べ数は、H30年246,300人、R元年265,300人、R2年171,000人と推移 県外講座(オンライン配信申込者数735人)、世界遺産センター企画展(3/20～4/11 観覧者数2,037人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産センターでの企画展の観覧者のうち、石見銀山遺跡への興味関心が高まった、やや高まったとした割合は93%で認知度が向上している。 県外講座のオンライン配信により参加者数が増加し、より多くの人々に情報が届いている。 大田市が実施する史跡等の保存整備、落石防止等の安全対策は着実に進んでいる。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 従来の調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な視点から進め研究成果を報告書として刊行してきたが、一方で、世界遺産センターの入館者等の一般の方への成果の発信は取組の途上である。 講座のオンライン配信による受講者の拡大は取組の途上である。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定やまとめ方が専門家向けであり、一般の方にわかりやすく発信する取組が不足 講座情報の周知や、これまで受講経験のない方への働きかけが不足
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> R5年度から始める調査研究では、一般の方に興味関心を持ってもらえるテーマは何かという視点から、研究テーマの設定プロセス等を検証し、見直しを実施 世界遺産センターにおいて、調査研究成果をわかりやすく展示する企画展を定期的に開催 講座の周知は、SNSほか様々な媒体を活用するとともに、新たな受講者の開拓や石見銀山への来訪につながる企画を進める。 大田市や地元関係機関並びに他部局との連携を進め、史跡等の保存整備の支援を継続するとともに、大田市が主導する日本遺産とタイアップした情報発信を強化

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		51,682	89,257
			うち一般財源 (千円)	28,621	42,235
今年度の取組内容	(一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ユネスコ世界ジオパークを運営する推進協議会の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子供を対象とした体験学習の実施 ⑥隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定審査に向けた対応				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	前回認定時の指摘事項である展示施設や解説看板・誘導標識、ジオサイトの再整備等の計画を検討し、再認定支援事業として事業化				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度値
		実績値	214,626.0	200,437.0						
		達成率	—	71.6	—	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定(次回再認定は令和3年度) ○隠岐地域の観光入込客延べ数:H30年168千人→R元年167千人→R2年度:92千人(観光動態調査結果) ○交流人口数(推定入島客数):H30年度:124千人→R元年度:123千人→R2年度:66千人 ○隠岐を訪れる外国人観光客:H30年度:911人→R元年度:1,133人→R2年度:96人(いずれも隠岐汽船利用者のみ)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	○令和3年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)について対応中または対応済
課題分析	① 課題	○隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度がまだ低い ○隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやトレッキングツアーなどが不足している
	② 原因	○隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観などが観光資源として活用できていない ○災害により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある ○ホームページやインターネットを利用した情報発信方法が不十分
	③ 方向性	引き続き以下の分野を柱とする具体的な事業を隠岐4町村及びジオパーク推進協議会と連携して取組む ・認定ガイドの養成やジオパーク関連商品の開発による来島者の満足度向上 ・DMO化による観光誘客の取組を強化 ・再認定支援事業としてジオサイトを整備

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		333,560	188,908
			うち一般財源 (千円)	31,288	33,546
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の自然公園への誘客促進に向け、地元協議会や市町村、民間事業者が連携して取り組む、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などへの支援 ・自然公園の魅力発信のため、満喫プロジェクトHPのコンテンツ作成と広域モニターツアーによる体験メニュー化の支援 ・受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備 ・満喫プロジェクト推進事業の連携強化とレベル向上のため、活動団体等を対象とした研修会の開催 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・自然公園を活用した誘客の取組に支援する補助制度を創設				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度 値
		実績値	64,997.0	7,589.0						
		達成率	—	12.5	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・大山隠岐国立公園の関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)を環境省が推計 (過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人) ・令和2年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、14,574人(前年と比べ85.1%減少)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを見据え、認知度向上のための島根の自然の魅力動画を国内外へ配信したデジタルマーケティング業務では、YouTubeの再生回数430万回を記録した ・自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、10事業を採択した ・自然公園等の遊歩道や案内看板の整備を実施し、受入環境の向上が進んでいる。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない ・県内の自然公園の認知度が低く、新型コロナの影響もあり来訪者は伸び悩んでいる
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な体験プログラム造成が不足しており、来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない ・地元を紹介するガイドの不足 ・自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム造成やガイド養成の取組をさらに進めるため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する ・案内看板や自然歩道の整備と維持管理を行い、来訪者に安全・安心、快適に利用してもらえるように環境を整える ・自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 観光振興課

事務事業の名称		「ご縁の国しまね」観光総合対策事業			
目的	誰(何)を対象として	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県外在住者:「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者:「ご縁」といった島根のイメージに沿うような観光商品や受入体制をつくる。		287,490	328,210
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> PR会社等を活用したメディアへの営業活動の強化 観光キャラクターしまねっこを活用した情報発信 歴史文化、自然、伝統芸能など、各テーマごとに訴求力のある効果的なメディアを活用したプロモーションの展開 出雲、石見、隠岐圏域ごとの観光素材を活用した着地型旅行商品の造成、マイクロツーリズムを意識した誘客対策の実施 JR、NEXCO等の交通機関、他県等との広域連携による誘客促進 ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて実施 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 各メディアのニーズをリサーチし、スケジューリング及び情報収集を徹底し、戦略的・積極的な営業活動を強化 新型コロナウイルス感染症の影響により、誘客施策の重点地域を首都圏から、マイクロツーリズムを意識し中四国、関西など近隣県、及びFDA就航地へシフト 				
1	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1 観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		32,800.0	24,664.0	29,182.0	33,700.0	34,000.0	千人	単年度値
	実績値	32,990.0	21,318.0						
	達成率	—	65.0	—	—	—	—		
2 宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		3,730.0	2,978.0	3,399.0	3,820.0	3,850.0	千人	単年度値
	実績値	3,782.0	2,424.0						
	達成率	—	65.0	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	しまね観光総合支援事業補助金 採択事業数 H30:25件/R1:14件/R2:11件 周遊バス運行 H30:4コース/R1:4コース/R2:4コース 観光コーディネーター支援対象団体 H30:6団体/R1:4団体/R2:1団体 しまねの観光認知度調査①旅行意向割合 R2年度1回目:68.4% 2回目:67.5% ②ご縁の国しまね認知度 R2年度1回目:16.0% 2回目:13.5%								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光スポットや自然、伝統芸能等を、しまねっこのSNSを活用して紹介し、若年層への情報発信を強化 しまねっこの新たなファンを増やし、島根県への関心を持ってもらうため、Instagramの開設やTikTokによる投稿を開始 観光コーディネーターの配置など、地域DMO体制移行に向けた支援を実施 パブリシティによる露出件数:368件(テレビ:7件、雑誌:6件、WEB:305件、新聞:22件、インスタ:25件、YouTube:3件)
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 認知度向上に効果的であるテレビへの露出減少 観光プロモーションのテーマである「ご縁」等を体感できる観光地・観光商品が少なく、認知も低い 個人旅行者の交通アクセスが不便 石見・隠岐地域への県外からの誘客ルートや、県東部と繋がる周遊ルートが未整備
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大による、メディアへの営業活動の減少 メディアのニーズに応じた魅力的な観光素材の掘り起こし、情報収集が不十分 観光地、観光商品をつくり、磨き上げるノウハウ、仕組みが不十分 旅行会社、個人旅行者のニーズの把握が不十分 来県する1次交通、観光地の周遊に利用する2次交通ともに不便
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各メディアに対し、戦略的な営業活動を展開 自然、文化歴史、伝統芸能、食、温泉などメディアのニーズに応じた観光素材の掘り起こし、情報収集の強化 旅行商品として成立、定着が見込まれる新しい取り組みについて、更なる掘り起こしと伴走型支援の強化 バリアフリー観光、サイクリング、教育旅行など、今後の伸びが見込まれる分野の取組強化 石見・隠岐地域の特色ある観光資源を活用した旅行商品づくりや情報発信の強化 1次交通、2次交通を担う交通機関と連携したプロモーションの実施

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		30,574	44,027
今年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座+オンライン ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座(シンポジウム) (2) 県外における情報発信(講座、シンポジウム) ①古代出雲文化シンポジウム ②日本遺産講座 (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	全ての講座・シンポジウムについてオンライン配信を行う。ホームページの構成・体裁をリニューアルする。親しみやすいコンテンツを新たに加える。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0						
		達成率	—	116.0	—	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>・新型コロナウイルス感染症の国内における状況を考慮し、古代歴史文化賞をはじめ古代出雲文化シンポジウムや東京講座の開催が中止となったが、松江講座や隠岐講座等にオンライン配信を導入したことで、令和2年度の講座・シンポジウム等への参加人数は目標値を超え800名増となった。</p> <p>・観光振興課及び大阪事務所と連携し、大阪でしまねの歴史文化をテーマとした島根学講座を開催した。(2回 計131名参加)</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、東京開催の大規模イベント等の一部中止などを余儀なくされている。県内で開催する講座については、感染対策に万全を期すため定員を50%に制限したが、オンライン配信を積極的に導入した。</p> <p>・講座のオンライン導入によって、全国どこからでも受講していただけるようになり、また、年齢的にも、より若い世代に広がるなど、あらたな受講者を獲得できた。その結果として年度当初に設定した目標数以上の参加者、視聴者を獲得した。あわせて、イベント情報をお届けするメールアドレス登録者数も、オンライン配信を始める前の約400から、約1,300に拡大した。</p>
課題分析	① 課題	<p>・現在の情報の受け手は、高齢者層が中心である。今後、人々の交流を促進するためには、若年層の取り込むなど、島根の歴史ファンを新規開拓する必要がある。</p>
	② 原因	<p>・若年層の主な情報入手手段はWEBであるが、現在のホームページには魅力がなく、検索が容易でない。</p> <p>・歴史に詳しくはないが、興味があるという初心者向けのコンテンツが不足している。</p>
	③ 方向性	<p>・島根の歴史文化に関する様々な情報について、一覧できるポータルサイトを作成する。</p> <p>・気軽に閲覧できるような短編動画を制作・配信し、FacebookなどSNSとも連動させ、効果的な発信となるよう工夫する。</p> <p>・オンラインシンポジウムについては、来訪動機に繋がるような現地映像を組み込み、幅広い層に受け入れられる内容に作り込んで配信する。</p>